

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の体力の状況等～

滝川市教育委員会

1 調査の概要

(1) 実施期間

令和5年4月から7月末まで

(2) 調査の対象学年（悉皆調査）

小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒

(3) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

(ア) 小学校の調査種目

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(イ) 中学校の調査種目

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走／20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

(※持久走か20mシャトルランのどちらかの選択が原則だが、両方実施した生徒もいる。)

イ 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

② 学校に対する児童生徒の体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

(4) 参加状況 小学校6校 中学校3校

(5) 調査対象児童生徒数

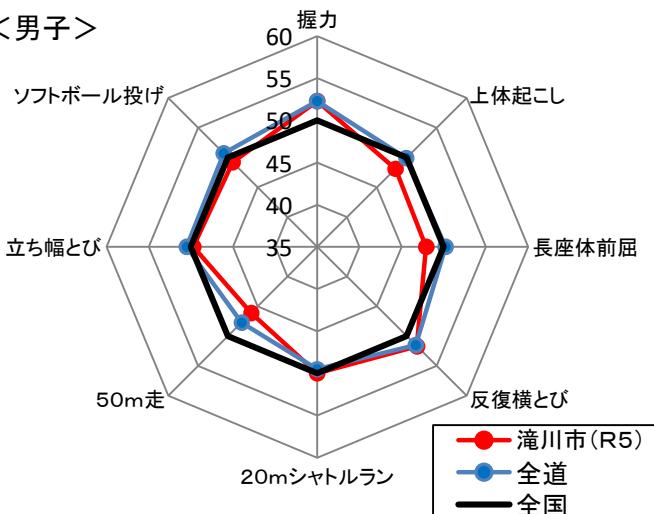
小学校第5学年	学校名	対象児童数	中学校第2学年	学校名	対象生徒数
	滝川第一小	30		江陵中	92
	滝川第二小	48		明苑中	131
	滝川第三小	47		開西中	43
	西小	40			
	江部乙小	5			
	東小	68			
	計	238		計	266

2 滝川市立小学校の状況及び体力向上策(学校数:6校、児童数:238名)

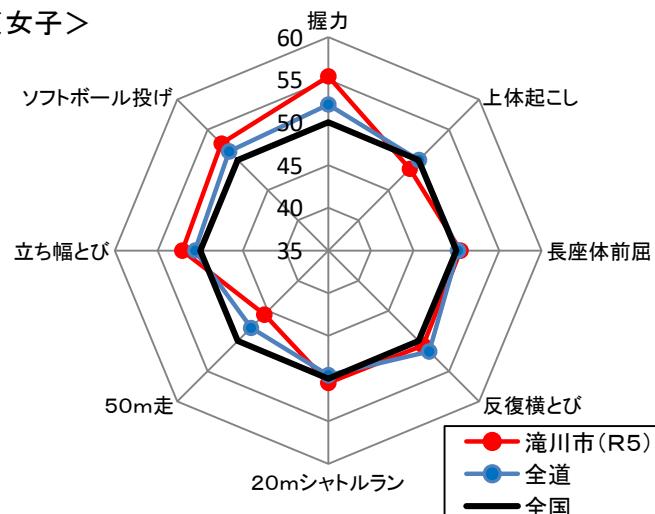
【各種目の状況】

全国を50とした時の偏差値(T得点)をレーダーチャートで表示

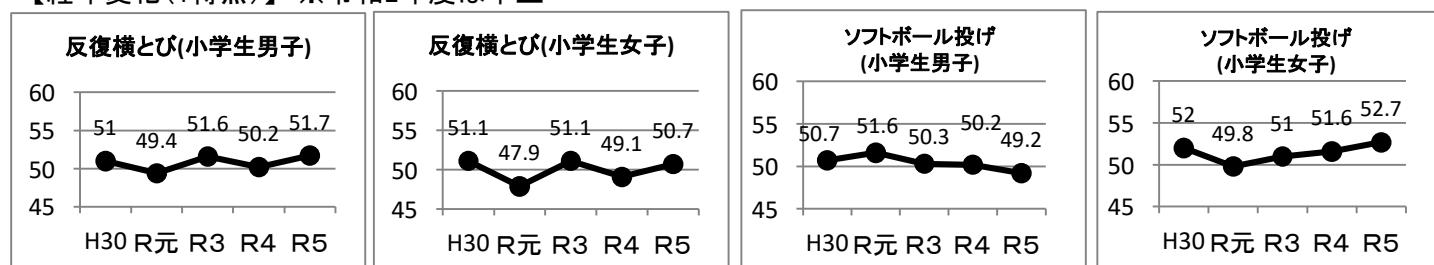
＜男子＞



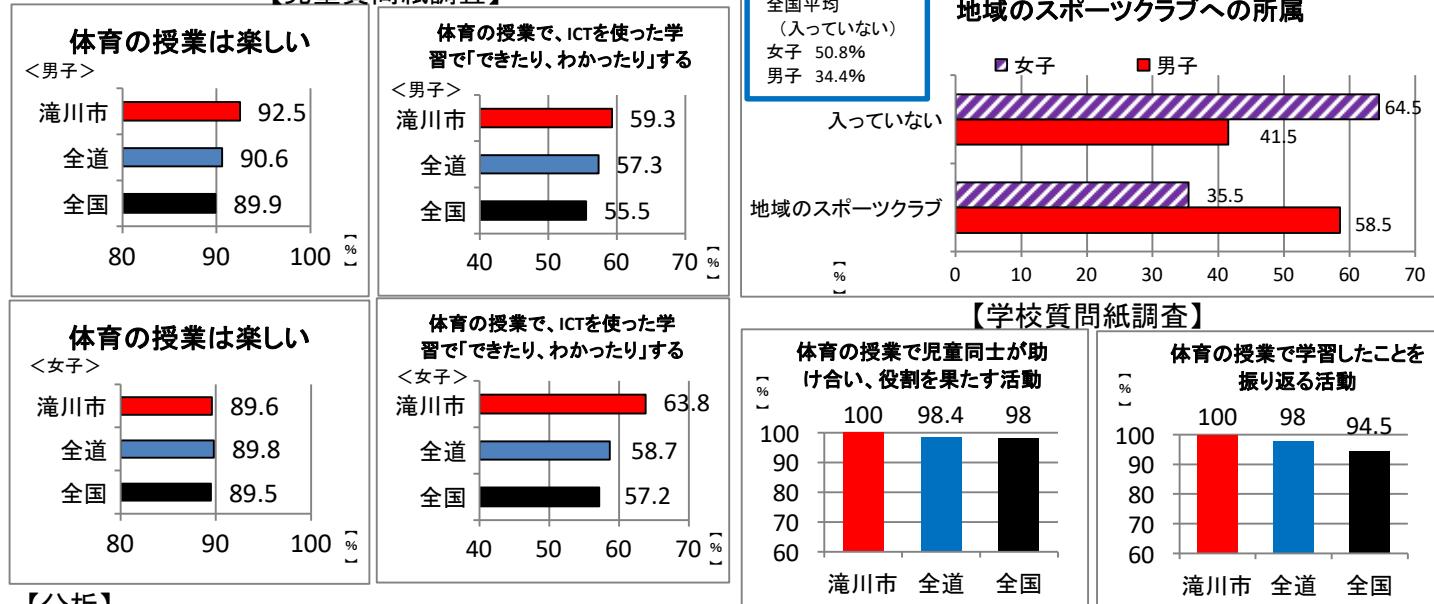
＜女子＞



【経年変化(T得点)】※令和2年度は中止



【児童質問紙調査】



【分析】

実技	<ul style="list-style-type: none"> 男子の「握力」「反復横とび」、女子の「握力」「20mシャトルラン」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「体力合計点」は全国平均を上回っている。また、女子の「ソフトボール投げ」の経年変化を見ると、令和元年から徐々に伸びを見せている。 「上体起こし」「50m走」は、平成30年から、男女ともに全国・全道平均に及んでおらず、苦手としている傾向が見られる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業は楽しい」「体育の授業で、ICTを使った学習で『できたり、わかったり』する」と回答した児童の割合は、男女ともに全国平均を上回っている。 体育の授業において、1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びに向けた授業改善が行われていることが要因と考えられる。 地域のスポーツクラブに所属していない児童は、男女ともに全国・全道と比べて高い割合となっており、女子の割合は全国平均より10P以上高くなっている。滝川市には学校の部活動に所属している児童が一定数いるためこのような結果(地域のスポーツクラブには多く入っていない)になったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 前年度、全ての小学校において、体育授業では児童同士で助け合い、役割を果たす活動を取り入れるとともに、学習したことを振り返る活動を行っている。

【滝川市の体力向上策】

- 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえ、T得点が50(全国平均)を下回る種目に重点を置いた体力向上の取組の推進(授業改善、環境整備)
- 滝川市教育振興会による体力向上事業の継続実施並びに「スピード」や「全身持久力」向上させる運動に焦点をあてた取組の推進
- 滝川市スポーツ協会及び各種団体によるスポーツ大会等の開催に係る支援
- アダプティッドスポーツの出前授業の継続実施
- 体育エキスパート教員活用事業による体育エキスパート教諭の取組の水平展開(公開授業の実施や巡回・訪問指導による市内小・中学校への成果の普及)
- 社会教育活動との連携による運動の機会の創出(外部講師を活用した陸上指導等)

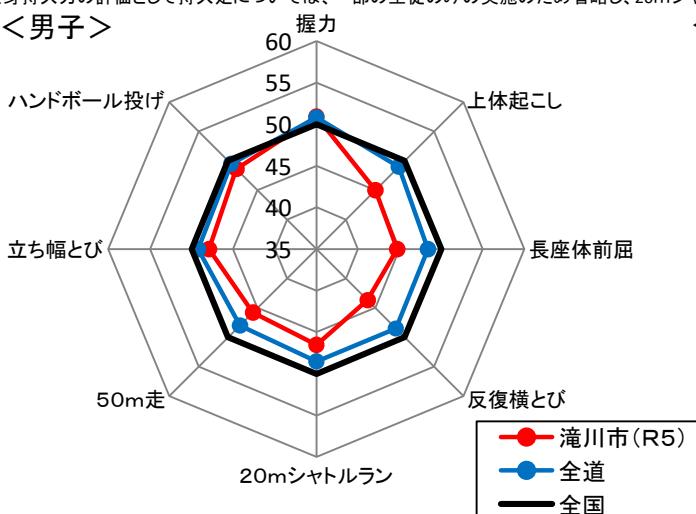
3 滝川市立中学校の状況及び体力向上策(学校数:3校、生徒数:266名)

【各種目の状況】

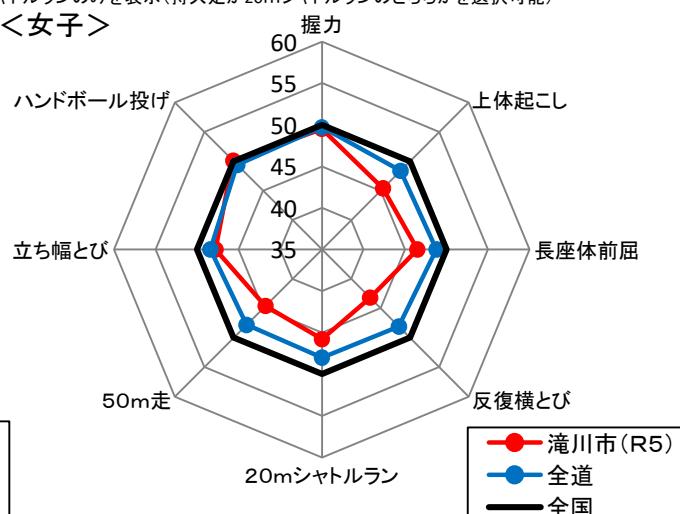
全国を50とした時の偏差値(T得点)をレーダーチャートで表示

全身持久力の評価として持久走については、一部の生徒のみの実施のため省略し、20mシャトルランのみを表示(持久走か20mシャトルランのどちらかを選択可能)

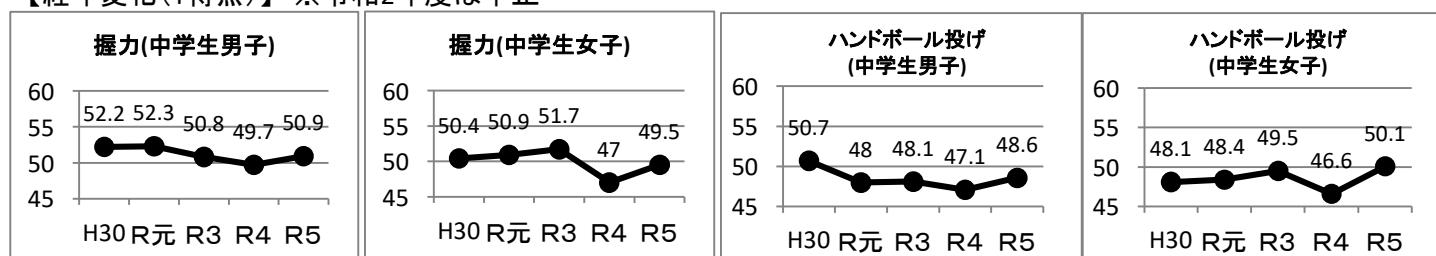
＜男子＞



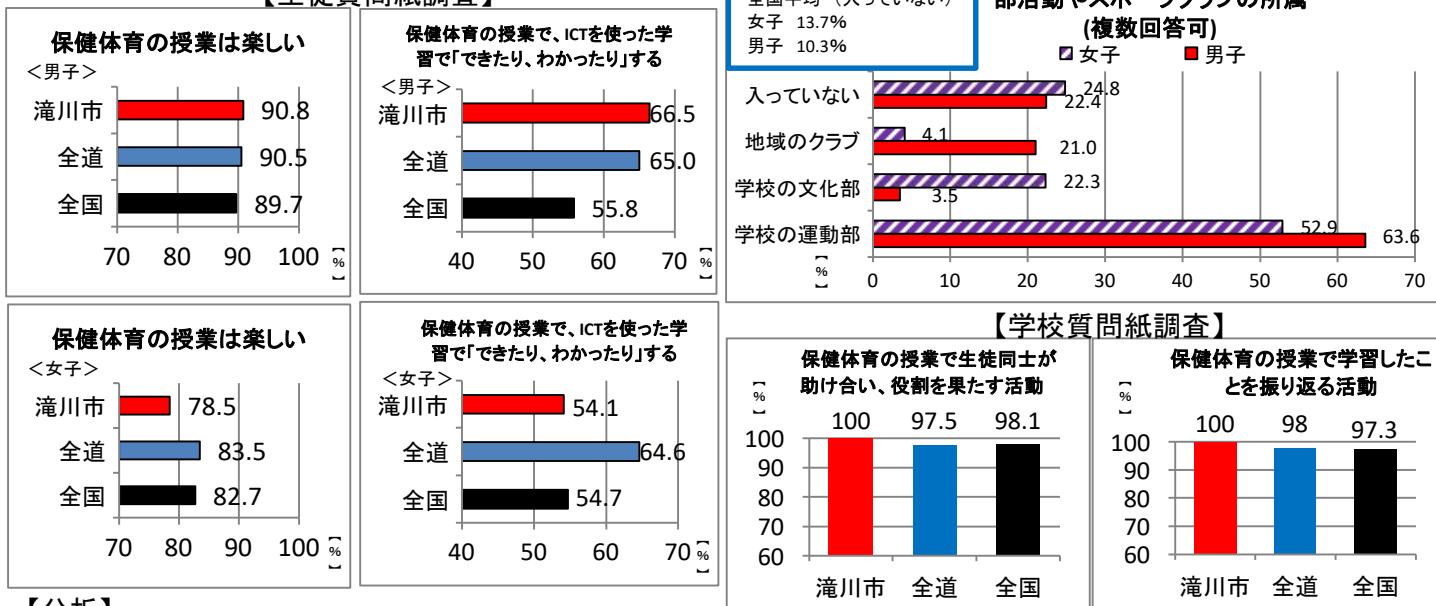
＜女子＞



【経年変化(T得点)】※令和2年度は中止



【生徒質問紙調査】



【分析】

実技	<ul style="list-style-type: none"> 男子の「握力」、女子の「ハンドボール投げ」は全国平均を上回っている。その他の種目は、男子、女子ともに全国平均に届いていない。 「反復横とび」は平成30年から、男女ともに全国・全道平均に及んでおらず、苦手としている傾向が見られる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒の割合は全国・全道の平均を男子は上回ったが、女子は下回った。また、「体育の授業で、ICTを使った学習で『できたり、わかったり』する」と回答した生徒の割合は、全国・全道の平均を男子は上回っているものの、女子では下回った。中学校においては、体育の授業におけるICTの効果的な活用について更なる改善が求められる。 部活やスポーツクラブに入っていないという生徒は、全国平均と比べて男女ともに高い割合となっている。特に地域のクラブに所属する女子が少ない。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 前年度、全ての中学校において、体育授業では生徒同士で助け合い、役割を果たす活動を取り入れるとともに、学習したことを振り返る活動を行っている。

【滝川市の体力向上策】

- 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえ、T得点が50(全国平均)を下回る種目に重点を置いた体力向上の取組の推進(授業改善、環境整備)
- 滝川市教育振興会による体力向上事業の継続実施並びに「全身持久力」を向上させる運動に焦点をあてた取組の推進
- 滝川市スポーツ協会及び各種団体によるスポーツ大会等の開催に係る支援
- 体育エキスパート教員活用事業による体育エキスパート教諭の取組の水平展開(公開授業の実施や巡回・訪問指導による市内小・中学校への成果の普及)
- 社会教育活動との連携による運動の機会の創出(外部講師を活用した陸上指導等)